



ワイエルフォレスト株式会社 事業概要

I. 新規植林事業(干潟での植林事業)

各地の地方行政と覚書 (MOU) を交わし植林用地を借地。30年間かけて森に育て上げ森のまま返還する。

- ・リアウ諸島州バタム市 1,500ha
- ・バンカブリトゥン州中央バンカ県 20,000ha
- ・南スマトラ州OKI県 20,000ha
- ・ジャンビ州東タンジュンジャブン県30,000ha
- ・南スマトラ州バニユアシン県 30,000ha



II. 森林再生事業(シルボフィッシャリー事業)

インドネシア海洋水産省所轄の海洋水産専門学校とシルボフィッシャリー (マングローブ再生+水産養殖)技術の共同研究と普及を実施。

森林を再生させながら住民レベルの水産業を支える。

- ・東ジャワ州パスルアン県
- ・東ジャワ州プロボリンゴ県
- ・南スマトラ州バニユアシン県 → 3,000haを大規模事業組成を目指しパイロット事業を展開中。



III. 森林保全事業 (REDD+事業)

2013年、インドネシア初となる『保護林におけるサービス利用事業許可』を取得。

南スマトラ州オーガン・コムリン・イリール県の沿岸域保護林23,500haにて、森林保全事業(REDD+事業)を実施中。

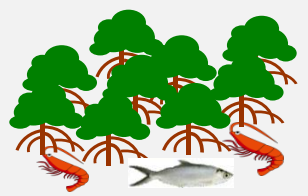
森林火災や不法伐採の防止の為にパトロールや、荒廃地での植林活動を、地元住民と一緒に実施し、住民の生活基盤の向上を含めたプログラムを展開。



シルボフィッシャリーの特徴

シルボフィッシャリー = 造林(silviculture) + 水産業(Fishery)

過去



生態系豊かなマングローブ

- ・マングローブ林とその生態系が海洋資源を支えている。

現在



効率化重視のエビ大量生産の拡大

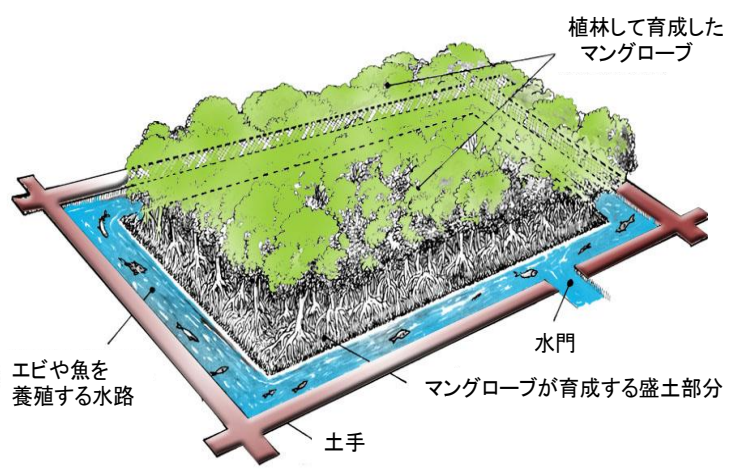
- ・マングローブ林の破壊・皆伐。
- ・飼料や薬剤の大量投入による周辺環境や生態系への悪影響
- ・水産物の疫病の蔓延。

未来



やがて池は、死んだ土地に・・・

- ・水質や土壌などの環境汚染され、エビ養殖ができなくなった。
- ・安価な魚や海藻に余儀なく転換。
- ・地元住民の貧困化が社会問題に。



- **自然調和型の養殖方式:**
マングローブ + 水産養殖
- **環境低負荷、食の安全:**
飼料・薬品不投与
森林由来有機物のみで養殖
- **持続可能な生産体制:**
森の恩恵で養殖業が成立
低コスト生産 → 生活基盤安定
- **防災機能・環境整備:**
 - ① 水質・土壌の浄化
 - ② 地球温暖化対策
 - ③ 生態系回復・保全
 - ④ 津波・高波対策
 - ⑤ 護岸機能
(海岸浸食・土壌流失防止)



シルボフィッシャリーの成果

マングローブ育成状況

開始前(2010)



2012.07.14



2014.06.23



2018.05.20



シルボフィッシャリーの養殖の成果

